

もう らい

石狩市八幡町から石狩川右岸と聚富(シップ)海岸沿いを歩き、望来高台を経て望来市街へ至るルートです。かつて幕末に函館奉行所石狩役所が置かれた歴史あるエリアを起点とし、石狩灯台を対岸に望む石狩川右岸堤防上を進み、海岸砂丘のエリアでは潮風に吹かれつつ、雄大な日本海の景

観と海浜植物が堪能できます。いまだ石油のしみ出す厚田油田跡を過ぎて坂道をのぼれば、壮大な石狩湾の大パノラマが望める高台。そして、最後の下り坂にも望来海岸の絶景が待っています。歴史の息吹と、大河の海との邂逅、海岸の多様な自然の魅力を体感できます。

| コースのルート/距離/所要時間 | |
|-----------------|-------------------------------------|
| 石狩川河口から望来 | 赤コース |
| ルート | 八幡町入口→④知津狩川橋→⑤シップ原生花園→望来坂下 |
| 距離 | 3.7km 約1時間 2.8km 約45分 4.5km 約1時間10分 |
| 所要時間 | 約11km/所要時間...2時間55分 |
| 旧知津狩川河口コース | 青コース |
| ルート | ④原生花園との分岐→⑥旧知津狩川河口→⑤赤コースとの合流地 |
| 距離 | 約2.6km/所要時間...40分 |

| バスでのアクセス | |
|----------|---|
| 往路 | 北海道中央バス[札幌線]「札幌ターミナル」乗車約56分、「八幡町入口」下車(1日5便) 他に[石狩線トーマン団地行](1日4便) 土日は便数、時間がかわります |
| 帰路 | 北海道中央バス[札幌線]「望来坂下」乗車約76分、「札幌ターミナル」下車(1日4便) 土日は便数、時間がかわります |



コースの見どころ・名所

| | | | | | |
|--|---|--|---|--|--|
| <h3>1 堤防から見る石狩灯台</h3> <p>灯台から河口部への距離は建造当初の明治25年は200mだったが、砂嘴が発達して現在は約1500mとなった。その全体が石狩川右岸の八幡町堤防上から見られ、夕日をバックに灯台を写せる絶好の撮影ポイントとなっている。</p> | <h3>2 導流堤</h3> <p>石狩川河口港の安定のため昭和48年につくられた。基部が開いて海水が透過する構造となっている。導流堤が機能してから左岸の砂嘴の成長は止まったといわれている。</p> | <h3>3 聚富(シップ)原生花園</h3> <p>平成6年、厚田村(当時)が植生内の車両の走行を防ぐため、7.8kmの周囲に木柵を設置して保護してきた。平成24年から石狩市海浜植物等保護条例により生態系保護地区として指定された。</p> <p>春から初夏にはヒメイズイ・ハマエンドウ・エゾスカシユリ・ハマナス、夏にはエゾカワラマツバ・エゾカワラナゲシコ・ヤナギタンポポ、秋にはコガネグク・ヒロハクサフジが開花する。またエゾチドリ、フデリンドウ、ハマハタザオ、ハマボウフウ等も少数見られる。</p> <p>コガネグク ヒメイズイ</p> | <h3>4 厚田油田</h3> <p>a 油田跡-油井2本 b 石油の湧出地</p> <p>明治以前に発見されたが昭和6年から採油。1日平均ドラム缶約2本。昭和36年に廃田となったが、今でも石油やガスが湧いているのを見ることが出来る。</p> | <h3>5 望来高台からの眺望</h3> <p>小樽市銭函まで約25km砂丘がつづく石狩海岸の北端。ゆるやかな弧をえがくダイナミックな海岸線が望める。天気が良ければ積丹半島が見える。石狩海岸を高台から見渡せる唯一のポイント。</p> | <h3>6 海蝕崖の展望</h3> <p>海岸段丘の海蝕崖では地層のところどころにこぶし大から直径2~3mの球状の岩石がつきでて見える。ノジュールとよばれ砂粒や化石を核にしてまわりの地層が固く固結してきたものである。</p> |
|--|---|--|---|--|--|

石狩海岸 フットパス



石狩川河口右岸から望来へのうみべみち

5

制作・編集・発行：いしかり海辺ファンクラブ

フットパスのマナー

- ゴミは持ち帰りましょう。
- 砂丘を崩したり、植物を傷つけたりないようにしましょう。
- 住んでいる人の生活と仕事に敬意を払いましょう。
- 港や船着き場を通る時は、作業者の邪魔にならないように注意しましょう。
- 漁具に触れないようにしましょう。
- 不必要な騒音は立てないようにしましょう。

フットパスを楽しむための注意

- 長時間歩くのに適した服装、装備をご用意ください。
- 砂浜や砂丘では、バギー車やバイクの走行に気をつけましょう。
- 道路を歩く時は、車に注意しましょう。
- コースによってはトイレや休憩場所が少ない場合があります。出発前に用を済ませてから歩きましょう。

ご利用の際の事故や怪我は自己責任となります。無理をせず安全第一でお楽しみください。

石狩海岸(石狩市本町地区)へのアクセス

Car

- 札幌方面から国道231号線を留萌方面へ。志美交差点を左折、道道225号線を約3km。
- 留萌方面から国道231号線を札幌方面へ。石狩河口橋を渡り右折し約3km。

Bus

- 北海道中央バス「石狩線」「札幌ターミナル」乗車約60分、「石狩温泉」下車。

お問い合わせ先

北海道大学大学院 農学研究院 気付 TEL&FAX: 011-706-2451 (担当:松島)
 mail: iufc.office@gmail.com web: http://ishikari-umibe-fc.jimdo.com
 写真提供: 石狩観光協会・石狩浜定期観察の会・北海道野鳥愛護会会員・いしかり砂丘の風資料館・石狩浜海浜植物保護センター

このパンフレットは一般財団法人セブン・イレブン記念財団の助成により制作しました。 2015.3

石狩海岸の自然

石狩海岸は、札幌中心部から車で45分という大都市近郊にかかわらず、生物多様性に富んだ海辺の自然環境が大規模に残された全国的にも貴重な自然海浜です。

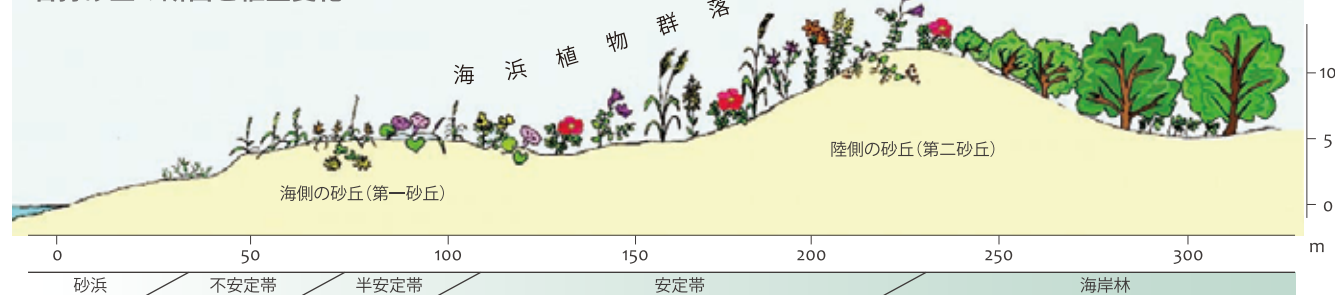
石狩川が運び、北西季節風が沿岸に寄せた砂によって形成された延長25kmにわたる海岸砂丘地形、大規模な海浜植物群落、日本最大規模のカシワの天然海岸林、これらが織りなす海岸砂丘特有の植生、海岸草原や水辺の野鳥、猛禽類、海浜特有の環境に生きる昆虫類等、これらすべてが石狩海岸のすぐれた自然の要素となっています。

海から内陸への植生の連続性

砂浜海岸は本来、海からの距離に応じて和らいでいく環境条件に対応して、植生の帯状の分布が見られ、海から内陸へ連続的に植生が変化していきます。しかし、近年は全国各地の砂浜海岸で、護岸・堤防建設、植林等により、本来の植生の連続性が失われつつあります。石狩海岸は、砂浜海岸本来の植生の連続性が大規模に残る全国的にも希少な自然海岸です。植物に覆われた砂丘は海岸の厳しい環境を和らげ、天然の防波堤として、高波などから背後を守ります。

また、すぐれた景観と快適なレクリエーションの場を提供します。

石狩砂丘の断面と植生変化



カシワの天然海岸林

小樽市銭函から石狩市厚田区望来まで、延長約20km最大幅約500m以上にも及ぶカシワの天然海岸林は、日本最大規模となっています。環境省が選定する「特定植物群落」のうち、郷土景観を代表する植物群落であり、人為的影響により急速に少なくなる恐れがある群落とされています。カシワは、厳しい海岸砂丘の環境に適応し、東北～北海道の天然海岸林を代表する樹種です。



カシワの実(9月頃)



冬のカシワ林

新たなルートの設定も計画しています。

樽川公園 ▶ 9線 ▶ 樽川公園(全長8km, 150分)
 樽川公園 ▶ 9線 ▶ 樽川公園(全長8km, 150分)
 樽川公園 ▶ 9線 ▶ 樽川公園(全長8km, 150分)
 樽川公園 ▶ 9線 ▶ 樽川公園(全長8km, 150分)

石狩新港工業団地を通り、クニミネ工業団地を通り、石狩新港の砂浜、海岸砂丘、日本最大規模のカシワ天然海岸林の眺めを堪能するルート。

石狩新港工業団地を通り、クニミネ工業団地を通り、石狩新港の砂浜、海岸砂丘、日本最大規模のカシワ天然海岸林の眺めを堪能するルート。

※石狩本町地区とは異なるルートを併せて紹介しています。

●石狩砂丘と新港工業団地を巡る道
 (全長8km・110分/全長7.1km・100分/全長5.7km・80分の3コース)
 5線、4線、3線 ▶ 新港 ▶ 砂浜 ▶ 花街道 ▶ 石狩浜海浜植物保護センター
 6線 ▶ 新港 ▶ 砂浜 ▶ 花街道 ▶ 石狩浜海浜植物保護センター
 7線 ▶ 新港 ▶ 砂浜 ▶ 花街道 ▶ 石狩浜海浜植物保護センター

●新港東から本町へのうみべみち
 (全長1.8km・35分/全長2.3km・40分の2コース)
 新川河口 ▶ 砂浜 ▶ 沼 ▶ カシワ林 ▶ 新川河口

●新川河口・旧小樽内川跡とカシワ林の道
 旧小樽内川跡周辺を歩くルート。多様な生物が生息する沼、石狩湾と手稲の山並みの広大な景観、海浜植物群や日本有数の天然カシワ林を身近に観察できる。

コース紹介(本マップ以外)

石狩海岸フットパスとは

小樽市銭函から石狩市厚田区望来までの約25kmの石狩海岸は、自然のままの砂浜、砂丘上に広がる海岸草原、カシワの天然海岸林が大規模に残る、全国でも希少な場所となっており、北海道自然環境保全指針(平成元年)において、保全を図るべき「すぐれた自然地域」に選定されています。砂丘海岸の豊かな生態系とともに、古くから人々は小樽と石狩をつなぐこの海辺の道を利用してきた歴史があります。近年になり石狩新港ができ、新たな開発が行われている場所でもあります。石狩湾の大パノラマのもと、自然と歴史と未来を体験できる数々の道を、あなたも歩いてみてください。

松浦武蔵の「海辺の橋より眺むる図」
 (北海道大学附属図書館蔵)
 松浦武蔵が描いた石狩市本町から見た見聞の眺望
 (松浦武蔵の「海辺の橋より眺むる図」)
 (松浦武蔵の「海辺の橋より眺むる図」)



石狩海岸に生きる生命たち

海、砂浜、草原、森……多様な自然のつながりが多様な生態系を育んでいます。この自然が残されているからこそ、各地で絶滅の危機に瀕している生きもの達が、当たり前のように石狩海岸では見られるのです。

絶滅危惧種

オジロワシ

絶滅危惧種

ハヤブサ

絶滅危惧種

ハマシギ

絶滅危惧種

ハマニガナ

絶滅危惧種

ノゴマ

絶滅危惧種

ノビタキ

絶滅危惧種

エゾカワラナデシコ

絶滅危惧種

カシワ

絶滅危惧種

ハマニク

絶滅危惧種

コウボウムギ

絶滅危惧種

ハマボウフウ

絶滅危惧種

ウンラン

絶滅危惧種

ハマナス

絶滅危惧種

エゾスカシユリ

絶滅危惧種

イソコモリグモ

絶滅危惧種

アカダマツボンタケ

絶滅危惧種

ハマヒルガオ

絶滅危惧種

ハマエンドウ

絶滅危惧種

イソスミレ